

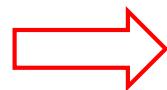
生産者の皆様へ リンゴ腐らん病の発生にご注意ください

リンゴ腐らん病の発生が増加しています。園内や地域での蔓延を防ぐためには、①早期発見 ②早期治療 ③予防が重要です。

① 早期発見

○ 病勢進展が旺盛な4～6月は腐らん病点検の好機です。
生育不良や枝枯れが認められた枝や主幹をよく観察しましょう。

生育不良
・枝枯れ



枝の場合

主幹・主枝
の場合



枝腐らん

感染部位
(剪定の切り口)



胴腐らん

診断の
ポイント



- 罹病部は淡褐色～赤褐色です。
- 表皮は湿り気を帯び、指で押すと弾力があります。
- 特有の発酵臭があります。
- 表面に黒色の小粒（分生子殻）を生じます。
- 湿度が高いと、黄色い糸くず（胞子角）を生じます。

② 早期治療

○ 枝腐らんは枝ごと剪除しましょう。

腐らん病手術ナイフ



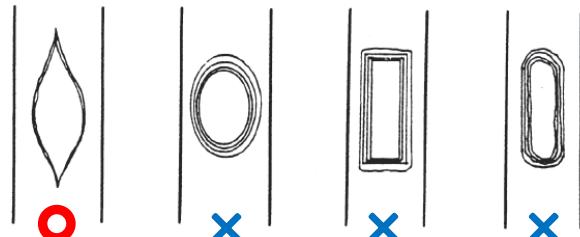
○ 脳腐らんは腐らん病手術ナイフなどを用い、削り取りましょう。



治療の
ポイント



・木質部に対して
垂直に削ります。



・紡錘形に削ります。

(図：長野県果樹指導指針より引用)

- ・表面だけでなく、木質部に到達するまで、形成層の変色部を削り取ります。
- ・削り取ったあとには菌の感染防止とカルス形成促進のため、塗布剤で保護します。
- ・罹病枝や削りカスは、拾い集めて焼却するか、土中に埋めるなどして処分します。

③ 予防

○ 腐らん病の胞子は1年中飛散しており、傷口から感染します。

年間を通じて総合的な対策が必要です。※最新の農薬登録を確認してください。

防除時期	目的	薬剤（令和5年4月10日確認）
剪定後	・剪定の切り口の保護	トップジンMペースト、バッチレートなど
発芽10日前 (休眠期)	・剪定の切り口からの感染防止	石灰硫黄合剤、トップジンM水和剤、ベンレート水和剤
6月下旬頃 (あら摘果終了後)	・摘果後の果台からの枝腐らん感染防止	トップジンM水和剤、ベンレート水和剤
12月上・中旬	・収穫後の果台からの枝腐らん感染防止 ・翌春までの脳腐らん感染防止	石灰硫黄合剤（積雪の早い地域では散布時期を早めてトップジンM水和剤を散布してもよい）
生育期の一般防除	(枝幹部に十分かかるように散布する)	